



佐呂間町サポーターズ倶楽部ネットワーク
2021年秋号

サロマの風

周りの山々やキムアネップ岬のサンゴ草が紅く色づきはじめ、身近に秋を感じるようになりました。新型コロナウイルスの終息は未だ見込めず、外出ができない苦しい状況が続いている中、おうち時間を充実させようと、日々の料理に力を入れ始めた方も多いのではないのでしょうか。

筆者は先日、佐呂間町で生産された食材を使ったカレー作りにチャレンジしました。サロマ和牛を使ったビーフカレー、サロマ豚のポークカレー、ホタテとタコのシーフードカレーの3種類を調理し、もち麦を入れて炊き上げたご飯と一緒にいただきました。ビーフカレーは肉がホロホロと崩れるほど柔らかいながらも、食べ応え抜群！ポークカレーは、脂がほどよくルーに溶け出しており、甘味が引き立つカレーになりました！シーフードカレーは、魚介の出汁によってあっさりとした仕上がりに。メイン食材以外は、すべて同じ材料、同じ調理法なのにメイン食材のうま味によって、まったく異なる味わいとなり、とても衝撃を受けました。

カレー作りに使用した食材は、ふるさと納税の返礼品として取り扱っておりますので、ぜひチェックしてみてください。また、カレー作りの様子は、佐呂間町商工会青年部のYoutubeチャンネルにてご覧いただけます！

発見！サロマの魅力！ 地産地消第6弾！

昭和40年、先代たちが絶え間ない努力で作り上げた養殖方法「サロマ方式」の論文発表とともに佐呂間漁協は実現に向け動き出した。

この「サロマ方式」と呼ばれるホタテの養殖方法は、漁師が自ら考え生み出した養殖法であるということの意味合いは大きく、ともに海を見てきた仲間が考え、そして、苦労の末に成功させた養殖法。

「この養殖方法を絶対に成功させる。」
漁師たちの共通したこの強い思いから、それまでのホタテ養殖以外に行ってきた他の漁を止め、養殖専業へと漁業転換し、地区ごとの共同経営を始めた。

こうして始まった事業は、すぐに結果をだし、昭和42年、ホタテ養殖の生産量は1400トン、生産額は1億2800万円。その後も順調に生産額を伸ばしながらも、「サロマ方式」はさらなる技術改良が行われ、ポケット籠での育成から「耳づり方式」による育成に転換するなど、現在のホタテ養殖漁業を確立させた。



←耳づり方式の様子↓



〜サロマのホタテ（後編）〜

先人たちが築き上げた「育てる漁業」。時代とともに磨かれていく漁師の技術。先人たちの意思を受け継ぎ、常に技術向上を目指して歩んできた歴史こそが、漁業を佐呂間町の基幹産業になるまでに押し上げ、誇れる産業にしたことは言うまでもない。

「自ら考え挑戦する」伝統は今もなお漁師たちに受け継がれ、先人たちが作り上げた素晴らしい伝統と技術をさらに向上させようとする漁師たちの強い意志こそが佐呂間の漁業を支えている。

☆サロマの「ホタテ」は
佐呂間町ふるさと納税で！



特設ページ↑

今年もやります！

秋の牡蠣抽選会！

毎度ご好評いただいている秋の抽選会を今年も開催いたします。ご応募いただいた方の中から抽選で20名様に、殻付き牡蠣4kgをプレゼントいたします！



さらに今回は抽選会に加え、佐呂間町長が丹精込めて育てた**ジャンボカボチャの重量当て大会**も同時開催いたします！詳細については、同封のチラシまたは公式SNSをご覧ください！
皆様のご応募お待ちしております！

佐呂間ダイアリー

- ◆7月
 - 15日 第73回佐呂間高校祭（～16日）
 - 下旬 小学生わんぱく広場（宿泊交流体験） **中止**
- ◆8月
 - 8日 商工会青年部オンライン抽選会
 - 中旬 BON・ぼん・盆踊り **中止**
 - 中旬 お見合いイベントさるまちコン **中止**
- ◆9月
 - 4日 第33回シンデレラ夢まつり（～5日） **中止**
 - 上旬 佐呂間中学・高校生が
アラスカ州パーマ市訪問 **中止**

佐呂間町の世帯数と人口（令和3年9月30日）

世帯数	2,397世帯	人口	4,873人
佐呂間町サポーターズ倶楽部人口	3,184人		
合計	8,057人		
	〔前号人口比較 131人増〕		
市民の出生と死亡	さるサポ新規登録		
R3. 7月	出生 1人	死亡 6人	20人
8月	出生 2人	死亡 8人	26人
9月	出生 6人	死亡 5人	19人 (9/30時点)

住所変更など、サポーターズ倶楽部会員登録情報に変更があった場合は、電話・メール等ご自身が連絡しやすい方法で構いませんので、お早めにご連絡をお願いします。



佐呂間町役場企画財政課

〒093-0592

北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地1

Tel 01587-2-1214 Fax 01587-2-3368



↑巨大野菜の実寸大
モニュメント

○パーマ市って？
パーマ市とはアメリカ合衆国アラスカ州にある都市で、佐呂間町とは1980年に姉妹都市提携を結んでおり、今年で41周年を迎えました。

農業が盛んにおこなわれており、重さ100キロの巨大キャベツなどといった巨大野菜の栽培で有名です。気になる方は「アラスカステートフェア」で検索してみてください。

○交流の始まり
昭和55年、佐呂間高校の教諭、石黒氏とパーマ市在住のホームズ氏のアマチュア無線での交信がきっかけとなり、ホームズ氏が当時石黒氏の所属していたサロマハムクラブと交流を深めるために来町。このときに両市町長間で姉妹都市提携についての親書を交わしたのが発端で、翌年には両議会でそれぞれ姉妹都市提携の議決がなされ、佐呂間町訪問団がパーマ市を公式訪問し、正式な調印のもと、姉妹都市としての交流が始まりました。

さるまの歴史〜パーマ市とのつながり〜

○交流事業

平成4年から、子どもたちが本場の英語に触れる機会として、中高生の短期交換留学を行って来ます。これまで、計216名の生徒がパーマ市へ短期留学しており、パーマ市からは160名が佐呂間町へ日本語や文化に触れるため、来町しています。一緒に授業を受けた際には、なんとか相手に自分の考えを伝えようと、ジェスチャーとこれまで学んできた英語を駆使し、言葉の壁を乗り越え、また普段の生活では、互いの生活習慣や文化の違いに最初は戸惑いと不安な表情を見せていましたが、少しずつ現地の暮らしに慣れてきたのか、自然と笑顔が増えていきました。

5年毎には周年記念式典を行っており、2015年の35周年記念の際には、佐呂間町訪問団がパーマ市を訪問しました。現地では記念式典はもちろん、ムースと呼ばれるヘラジカとの遭遇や、山々の間に食いつまむ氷河の周りを散策するなど、訪問団一同、アラスカの大自然を満喫していました。



↑全長43kmのマタヌスカ氷河



↑水を飲むヘラジカ(メス)

